

連載技術解説 “ 社会安全のためのトレーサビリティ ” の開始によせて

安全な暮らしのための情報技術研究会

情報通信技術の進歩は多くの人に便利な環境を提供してきた。しかしその便利さを悪用して社会に不安と緊張を与える事例が現れ、その被害者も増加している。それらの多く事例では最新の情報技術が駆使されており、法律や取締りが後手にまわっていることを否定できない。情報通信技術を応用して現れたこれらの事象に対しては、法的な対応が急がれるとともに、情報通信技術としての対策も急務である。

そこで画像電子学会は2007年9月に“安全な暮らしのための情報技術研究会”を設けて、学会としてこれらの課題を検討する場を開設した。この研究会の詳細はウェブ：

<http://www.y-adagio.com/public/committees/ssc/ssc.htm>

に示されている。この研究会で扱おうとしている主なトピックは次のとおりである。

- 情報通信技術を用いた犯罪・日常生活のトラブルへの対応
- 情報通信技術を用いた悪質商法への対応
- 情報通信技術を用いた公正な社会安全システム
- 情報通信技術を用いた社会安全への対応に資する人材育成
- 情報通信技術の社会安全への適用に関連する法的規制
- 高度情報時代に対応した法改正の必要性

第1回の安全な暮らしのための情報技術研究会は2008年3月に大阪で開催され、“社会安全のためのトレーサビリティ”のテーマに関する講演と議論とが行われた。そこで講演された内容については、その後も関係各位からお問合せをいただいている。そこで画像電子学会編集委員会からのご提案に基づき、第1回の研究会の講演内容に多少の加筆を行って、約1年間の予定で学会誌に連載を開始することになった。各号の連載内容として、次の課題を予定している。

(1) 2008年11月号

テキストマイニング、データマイニングと社会活動のトレース

(2) 2009年1月号

インターネットでのルーツトレーシングによるマルチ商法対策
トレーシングの理論と思想

(3) 2009年3月号

食品トレースの実態と課題 - 食品表示偽装は防げるか

(4) 2009年5月号

防犯を中心とした安全確保分野における人や事物のトレースの現状と課題

(5) 2009年7月号

SPAMメールに対する新たな規制
連載のまとめと今後の展望

この連載をきっかけとして画像電子学会において“安全な暮らしのための情報技術”に関する議論が深まることを期待する。

小町祐史

大阪工業大学 情報科学部